

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中濃特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月25日(水) 9:30~11:30
- 3 開催場所 中濃特別支援学校学校 特別棟会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|---------------------|
| 会長 | 大谷 弘 | 各務原市手をつなぐ育成会理事長 |
| 副会長 | 加納 稔 | 中央工機株式会社社長 |
| 委員 | 市原 真紀 | ひまわりの丘第一学園園長 |
| | 梅田 美保 | 美濃市ひばり園サービス管理責任者 |
| | 西村 健太 | 一般社団法人関青年会議所理事長【欠席】 |
| | 安井 晴哉 | 向山自治会長 |
| | 中田 智香 | 同窓会後援会会長 |
| | 小田 晶子 | PTA会長 |
| | 遠座 未菜 | 中部学院大学短期大学幼児教育学科講師 |
-
- | | | |
|-----|-------|-------|
| 学校側 | 垣添 奈巳 | 校長 |
| | 平野 直子 | 副校長 |
| | 高井 和彦 | 事務部長 |
| | 遠藤 衣代 | 教頭 |
| | 長屋 陽子 | 小学部主事 |
| | 亀谷 真也 | 中学部主事 |
| | 酒井 健志 | 高等部主事 |
| | 外村 良文 | 教務主任 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和7年度の自己評価・学校関係者評価について

○小学部、中学部、高等部の取組について説明

意見1: 学年を越えた縦割りグループでの活動や実態に応じたグループ学習は児童生徒にとってよいことであるし、教師の視野が広がる。より発展させてほしい。

意見2: 特別支援学校に通うと、年齢が高くなるにつれて地域との関わりが少なくなる。その中で交流活動を進めてくれることは大変ありがたい。

意見3: この会議において、先生方は自信を持って説明されていた。今年度の取組に手ごたえを感じてさらに発展させていくのだ、という力強さを感じた。

○小学部、中学部、高等部における地域との交流活動について説明

意見1: 私の自治会からのボランティア参加者13名から「(高等部作業班での活動が) 楽

しい」という感想を聞いている。次年度も継続し、ワンランク上の新しい商品を作ることを目的に参加したいと考えている。自治会員にとっても家の外へ出て活気のある生活に繋がりたい。

意見 2 : 地域の方たちに存在を知ってもらうためには、交流活動が大切なのだとあらためて感じた。

意見 3 : 私の子どもがこの学校に通っていたときからさらに交流活動が発展している。交流活動は、当校の児童生徒だけでなく、交流相手となる地域の方や、小学校、中学校、大学、双方にとってよい影響がある。

○各分掌の活動について説明

意見 1 : 研修の日（児童生徒が午前日課で下校して午後が職員研修：年 2 回）があるのはとてもよい。同じ研修を全職員で受けることに効果がある。その後の職員間の交流にも繋がる。

意見 2 : ホームページで教育活動を発信することについて、教育活動ごとにタグをつけてカテゴリー分けをするなど、地域の方や保護者に分かり易く情報を発信する工夫がみられてよい。

(2) 全体を振り返って

意見 1 : 地域資源は「人」が一番大切である。児童生徒自身より下や上の幅広い年齢層で交流活動ができたことはよかった。お互いの刺激になる。

意見 2 : 保育園の同級生が小学校と特別支援学校に入学するとお互いに会う機会が少なくなる中で、交流籍交流ができると再度会う機会ができる。幼児期に一緒にいた子ども同士が交流できると早期における相互の理解が深まる。

意見 3 : 私の住む自治会の 75% が 75 歳以上でほとんど家から出ない方ばかりである。今年度はその中の一部（13 名）がボランティアに参加したが、次年度は 30 名程度に増やしたい。

意見 3 : うちの子は小学校までは地域の友達との関わりがあった。中学校から特別支援学校に入学してからは関わりが減り、20 歳になった今では互いに分からない存在になっていた。地域に知っている人が減っていくことはとても寂しいことである。

意見 4 : PTA 活動では、これまで役員をくじ引きなどで決めてきた。今は働く母親も増えており、役員となることはとても負担である。そのため、今年度はボランティアとして可能な時に参加してもらっており、今の時代に合った取組だと思う。一方で、親同士の関りは減ってきているので、PTA のボランティア活動が関わり場の場になるとよいと思うし、保護者のお茶会などの開催を検討したい。

6 会議のまとめ

特に小学部の縦割り活動や、小学部、中学部、高等部における交流活動が発展しており、児童生徒・地域双方により効果が生まれていることが確認された。

地域との繋がりが希薄になりがちなか中、特別支援学校としてできる積極的な交流の機会を設けている点が高く評価された。

学校ボランティアとしての活動を楽しむ声も多く、今後は参加者増加や活動の質的向上が期待される。

全職員研修や情報発信の工夫など、校内の組織的な取組も充実し、教職員の一体感が強まっている。

学校と PTA および地域との関わり方の変化を踏まえ、無理なく参加できる仕組みづくりや保護者同士の交流の場の必要性が確認された。